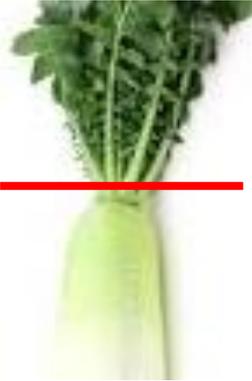


11月から12月にかけての管理作業

野菜名	栽培管理作業
ダイコン	<p>収穫が近いため湿害のないように排水を良くしておきます。 9月上旬の播種では11月から収穫できます。 長く収穫しないままにしておく品種によっては根にスが入りますので 順次収穫して下さい。 2月になると抽苔し易くなるので 1月中には収穫を終えるようにして下さい。</p> <p>収穫数が多い等で保管したい場合は、 葉の最下部を切り取り(右図の赤線)、 地中に戻して保管できます。</p>  <p>春取りダイコン等でこれからダイコンの播種をする場合は、抽苔し難い品種の種を蒔きます。余っているからもったないと、9月に撒いた種を使うと、早ければ2月から抽苔して収穫できません。</p> <p>ビニルトンネル:温度が上がるので抽苔抑止の効果があります。</p>
ハクサイ	<p>早生、中生、晩生によって違いますが、9月上中旬に定植したものは50日~70日後の11月中旬から収穫可能です。 結球の上部を押さえて硬くなっていれば収穫可能ですので順次収穫します。 アオムシやヨトウムシは寒くなると巻いている葉の中で生息するので、葉の中を見て虫の糞や食害を確認し駆除してください。 2月上旬頃から花蕾が出ると、ハクサイとしてのうまみがなくなりますので早期に収穫して下さい。</p>
リーフレタス	<p>品種にもよりますが、9月中旬に苗を定植したものは、11月上旬から収穫できます。 あまり長く収穫しないと下葉が黄化・腐敗しますので順次収穫します。 ナメクジが地際の葉の下や裏側に生息するため、枯れたり黄色くなった下葉は取り除きます。 強い寒さに遭うと葉先が傷みやすいので12月後半以降は不織布などで覆って防寒すると良いです。</p>

野菜名	栽培管理作業
ブロッコリ	側花蕾も収穫できる品種では、1か月に1回、化成肥料を株あたり1～2つまみ追肥すると3月上旬頃まで収穫できます。
エンドウ	<p>11月上旬～中旬:1穴3粒の種をまきます。その後植えた所にモミガラを敷き、支柱を立てます。</p> <p>12月:3本を2本に間引きます。1本にしないのは2月の寒さで立ち枯れになった時の予備のためです</p> <p>※本葉2-3枚(草丈10-15cm)の 때가最も耐寒性が強いです。但し、尼崎ではそれほど冷え込まないのであまり気にしなくてもいいですが、霜が降りそうなときは防寒してください。</p>
イチゴ	<p>11月中旬:イチゴ株元土壌の表面が乾いたら灌水し株元に完熟堆肥を敷く。</p> <p>12月中旬:冬季の低温短日と休眠で葉が緑から黄色化します。霜が降りそうであれば、寒冷紗を株にべた掛けします。</p> <p>12月～2月:蕾が出てくれば、寒さで収穫できないため、除去できる長さまで待ち、果梗ともども花を除去します。</p> <p>2月中旬 :追肥は葉が動き出す2月中旬からと出蕾前の花の充実により3月中旬に、株から離して化成肥料(8-8-8)4g(2つまみ)を2回追肥します。</p> <p>※3月中旬の追肥が遅れると収穫期にイチゴの甘みが少なくなるので遅れないように注意してください。</p> <p>その後畝全体に十分な灌水し、黒マルチを敷き、果実の泥よけや除草・ダンゴムシ、ナメクジの食害の被害軽減のために行う。 灌水チューブを入れていない時は株元の黒マルチを大きく開けて灌水します</p> <p>果実が緑から白色に変わる頃、果実の着色を早めるために古葉や脇芽を除去し、日当たりや風通しを良くする。 注意点はチツソ成分の量が多すぎると果実は大きいが変形果になりやすく、甘みが少なくなる。</p>

簡単な施肥量の計り方

堆肥	スコップ1杯	約2kg
苦土石灰	1握り	約40g
化成肥料	1握り	約30g
(その他)	1つまみ	約2g